

I 目的

本調査は、高齢者施策検討にあたっての基礎資料を得ることを目的に、「平成 19 年国民生活基礎調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部)の個票データの特別集計を行い、高齢者を「健康状態」、「経済状態」を軸に分類し、その出現率と構成比を明らかにすることを旨とした。さらに、同調査で把握している、各グループの高齢者の生活実態について分析することを旨とした。

加えて、同調査データから、高齢者の社会参加等の状況と、属性の関係について分析を行った。

II 方法

1. 「平成 19 年 国民生活基礎調査」の概要

分析にあたっては、厚生労働省大臣官房統計情報部に対し、「平成 19 年国民生活基礎調査」の特別集計に関する申請を行った。

なお、本調査では、国民生活基礎調査のうち、【世帯票】、【健康票】、【所得票】、【貯蓄票】について特別集計の使用申請を行った。

	概 要
調査の目的	保健、医療、福祉、年金、所得等の国民生活の基礎的事項を調査し、厚生労働行政の企画及び運営に必要な基礎資料を得るとともに、各種調査の調査客体を抽出するための親標本を設定することを目的としている。 ※3年ごとに大規模な調査を実施し、中間の各年には、世帯の基本的事項及び所得の状況について小規模で簡易な調査を実施
調査の対象及び客体	全国の世帯及び世帯員を対象とし、世帯表及び健康票については、平成 17 年国勢調査区から層化無作為抽出した 5,440 地区内のすべての世帯(約 29 万世帯)及び世帯員(約 76 万人)を、介護票については、前期の 5440 地区から層化無作為抽出した 2,500 地区内の介護保険法の要介護者及び要支援者を、所得票及び貯蓄票については、前期の 5440 地区に設定された単位区から無作為抽出した 2,000 単位区のすべての世帯(約 4 万世帯)及び世帯員(約 10 万人)を調査客体とした。
調査時期	世帯票、健康票、介護票：平成 19 年 6 月 7 日(木) 所得票、貯蓄票：平成 19 年 7 月 12 日(木) 注：所得については、平成 18 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間の所得を調査した。貯蓄・借入金については、平成 19 年 6 月末日現在の貯蓄額・借入金残高を調査した。

資料：「平成 19 年 国民生活基礎調査 第 1 巻 結果の概要 全国編(世帯、所得・貯蓄)」厚生労働省大臣官房統計情報部編

2. 集計客体および集計項目

(1) 集計客体数

「平成 19 年 国民生活基礎調査」の集計対象データセットの客体数、回収客体数及び集計客体数は、次のとおりであった。

なお、本調査では、調査目的を踏まえ、60 歳以上を対象に、【世帯票】より世帯員個人単位で集計を行った。人数は 10 万人あたりで表示している。

< 国民生活基礎調査全体の集計客体数 >

	集計客体数 (集計不能のものを除いた数)
【世帯票・健康票】	229,821 世帯
【所得票・貯蓄票】	23,513 世帯

(2) 高齢者のグループ化

「健康状態」、「経済状態」を軸に高齢者を 4 つのグループに区分した。

経済状態については、推定される個人所得額を用いた客観的指標を用いて区分した。

	良い	悪い
健康状態 【健康票】 質問7 現在の健康状態	よい、まあよい、ふつう =健康状態 良	あまりよくない、よくない =健康状態 悪
経済状態 【所得票】	【分類方法】 対象世帯員一人当たりの「等価可処分所得」を算出。中央値の半分以上の世帯員を「経済状態が悪い」、半分より所得が高い個人を「経済状態が良い」と分類した。 < 等価可処分所得の算出式 > (所) 合計所得 ^(注1) - (所得税、住民税、社会保険料) の値を、世帯人員数の平方根で除した。 ※「国民生活基礎調査」では、「課税等の状況」に関する項目として、「固定資産税(事業関係分を除く)」、「企業年金・個人年金等」を調査しているが、本分析用では、特別集計時に利用制限があったため、等価可処分所得の算出には反映していない。	

(注1) 合計所得とは、雇用者所得、事業所得、農耕・畜産所得、家内労働所得、財産所得、公的年金・恩給、雇用保険、その他の社会保障給付金、仕送り、企業年金・個人年金等、その他の所得の合計。

(3)属性に関する集計項目

高齢者の属性に関する以下の設問について、(2) の高齢者のグループ別に、実態把握を行った。

問番号	カテゴリ
(世 世帯員の状況)質問 3 性・質問 4 出生年月	男 / 女 × 年齢別 (40・50 代、60 ~ 74 歳、75 歳以上)
(世)世帯構造	独居 / 夫婦二人 / その他 (注)(世 世帯員の状況)から夫婦関係、親子関係、その他の親族を特定する。
(世 世帯員の状況)質問 5 配偶者の状況	配偶者あり、未婚、死別、離婚
(世 世帯員の状況)質問 2 同居している子どもの有無、人数	子どもの有無： いる / いない、いる場合の人数 (注)(世 世帯員の状況)から夫婦関係、親子関係、その他の親族を特定する。
(世 世帯員の状況)質問 17 別居している子どもの有無	いる / いない
(世 世帯員の状況)質問 17-1 別居している子どもの人数	別居している子どもがいる場合の人数
(世 世帯員の状況)質問 17-2 最も近くに住んでいる別居している子どもの居住場所	居住場所：同一家屋、同一敷地、近隣地域、同一市区町村、その他の地域
(世 世帯の状況)質問 3 住居の種類	持ち家の一戸建 / 持ち家の共同住宅 / 賃貸住宅等の一戸建 / 賃貸住宅等の共同住宅 (注)2 賃貸住宅、3 社宅・公務員住宅等の給与住宅、4 都市再生機構・公社等の公営賃貸住宅、5 借間・その他は合算。
(世 世帯の状況)質問 4 室数及び床面積	室数 床面積 (注)それぞれ最大値、最小値、平均値、標準偏差を算出する。
(世) 地域ブロック、(世) 市郡	

(4) 関連集計項目

高齢者のグループ別に、経済的活動の状況、日常生活の状況に関連する以下の設問を集計した。

分野	問番号	カテゴリ
経済的活動の状況別	(世帯員の状況)質問 5 平成19年5月の家計支出総額 (世帯員の状況)質問 5-2 別居の親、子どもへの仕送りの費用の有無、ある場合の目的、費用、	別居の親、子どもへの仕送りの費用のある/なし ある場合の目的 ある場合の仕送り額(万円) (注) はそれぞれ最大値、最小値、平均値、標準偏差を算出する。
	(世帯員の状況)質問 2 世帯主と続柄 (所)所得の種類	その他世帯で、同一家計に30歳以上の所得のない世帯員(夫婦を除く)が所属している世帯の割合
	(世帯員の状況)質問 6 医療保険の加入状況	国民健康保険の市町村 / 国民健康保険の組合 / 利用者保険の加入者本人 / 利用者保険の家族(被扶養者)
	(世帯員の状況)質問7 公的年金・恩給の受給状況	受給している / 受給していない。 受給している場合の年金の種類(9種類) (注) と の割合をあわせて百分率を算出する。
	(世帯員の状況)質問 10 公的年金の加入状況	加入している / 加入していない。 加入している場合の年金の種類(3種類) (注) と の割合をあわせて百分率を算出する。
	(世帯員の状況)質問 11 平成19年5月の仕事の状況	仕事あり / 仕事なし。 仕事ありの場合の仕事の状況(4区分) 仕事なしの場合の状況(3区分) (注1) の百分率をそれぞれ算出する。 (注2) をあわせて、全7区分で算出する。
	(世帯員の状況)質問 12 一週間の就業日数、就業時間、通勤時間	就業日数(一週間) 就業時間(一週間) 通勤時間(一日) (注1) はそれぞれ最大値、最小値、平均値、標準偏差を算出する。
	(世帯員の状況)質問 14 仕事の内容(職業分類)	(注)12分類で集計
	(世帯員の状況)質問 15 勤めか自営かの別、勤め先での呼称	(注)下記の2通りで集計。 質問 15 の 12 分類で集計 質問 15 の 1 自営業主(雇人あり) / 質問 15 の 2 自営業主(雇人なし) / 質問 15 の 3 家族従事者 / 質問 15 の 4 会社・団体の役員 / 質問 15-1 の 1 正規の職員・従業員 / 質問 15-1 の 2 パート・3 アルバイト / 質問 15-1 の 4 派遣社員・5 契約社員・嘱託 / その他(上記以外の人)

分野	問番号	カテゴリ
経済的活動 の状況別 (つづき)	(世 世帯員の状況)質問 16 就業 希望の有無、質問 16-1 希望する 就業形態	(質問 11 で「仕事なし」の人のみ。) 「仕事をしたい」「したくない」の割合を算出。 「仕事をしたい」(6区分)と「したくない」の割合を算 出。 (質問 11 で「仕事あり」の人も母数に含める。) 「仕事あり」、「就業希望あり」を回答者母数に対す る割合で算出する。
	(世 世帯員の状況)質問 16-2 仕事につけそうか	(質問 16 で「仕事をしたい」の人のみ。) すぐ仕事につける / につけない
	(世 世帯員の状況)質問 16-3 仕事を探しているか	(質問 16-2 の「すぐ仕事につける」の人のみ。) 仕事を探している / 仕事を探していない
	(世 世帯員の状況)質問 16-4 仕事につけない理由	(質問 16-2 の「すぐ仕事につけない」の人のみ。複数 回答) 4区分で集計。
	(所)課税の有無、社会保険料の負 担	所得税、もしくは住民税の課税あり、なし 所得税、もしくは住民税の課税ありの場合の金額 (注) は所得税、もしくは住民税の課税ありの場合 の金額を算出する。最大値、最小値、平均値、標準 偏差を算出する。
日常生活の状 況別	本人 (世 世帯員の状況)質問 9 手助 けや見守りの要否	(注)本人(40 歳以上の世帯員)の手助けや見守りの 有無の割合を算出する。 必要としている / 必要としていない
	本人 (世 世帯員の状況)質問 9-1 要 介護認定	(注)母集団に対する要介護認定者の割合を算出す る。 要介護認定を受けている / 受けていない
	本人 (世 世帯員の状況)質問 9-2 日 常生活自立度	(注)母集団に対する要介護認定者の割合を算出す る。 (手助けや見守りは要していない + 4段階の5段階と して算出する)
	本人 (世 世帯員の状況)質問 9-3 質 問 9-2 の期間	(注)介護を受けている期間を9段階で算出する。 (9段階)
	家族 (世 世帯員の状況)質問 9-4 手 助けや見守りをしている方の性	(注)世帯員番号を用いて 40 歳以上の世帯員のう ち、介護をしている人の割合を算出する。 介護をしている男 / 介護をしている女
	家族 (世 世帯員の状況)質問 9-5 同 別居の状況	(注)介護者のうち、同居している場合、世帯員番号 を用いて 40 歳以上の世帯員のうち、介護をしている 人の割合を算出する。 同居 / 別居
	家族 (世 世帯員の状況)質問 9-6 続 柄	(注)世帯員番号を用いて 40 歳以上の世帯員のう ち、同居で介護をしている人の属性を計算する。 配偶者 / 子 / 子の配偶者 / 父母 / その他の親族 / 事業者 / その他
	本人 (健)質問 3 現在の通院の状況、 通院している傷病、最も気になる傷 病	(注1)通院の有無を割合で算出する。 通院している / 通院していない (注2)通院している病気やけがを41の選択肢につい て複数回答で集計する。

分野	問番号	カテゴリ
		(注 3)通院している病気やけがのうち最も木になるものを41の選択肢について単一回答で集計する。
本人	(健)質問 5 日常生活への影響の有無、補問 5-1 影響の内容	ある/なし (注 1)割合を算出する 影響の内容の5種類 (注 2)複数回答で割合を算出する
本人	(健)質問 8 悩みやストレスの有無	ある/なし (注 1)割合を算出する
本人	(健)補問 8-1 悩みやストレスの原因、最も気になる悩みやストレス	(注 1)原因の内容の 21 種類を複数回答で集計する。 (注 2)複数回答で割合を算出する(注)最も気になる原因を21の選択肢について単一回答で集計する。
本人	(健)補問 8-2 悩みやストレスの相談相手、最も気になる悩みやストレスの相談相手	(注 1)相談状況の 11 種類を複数回答で集計する。 (注 2)最も気になる悩みの相談状況を 11 の選択肢について単一回答で集計する。
本人	(健)質問 9 過去1ヶ月の精神的健康状態	(注 1)個人について点数化する。 (注 2)6項目ごとに、5区分で割合を集計する。
本人	(健)質問 10 喫煙の有無、1日の本数	喫煙の有無の割合(4択) 喫煙者の本数の割合(4択)
本人	(健)質問 11 健診等の受診の有無	健診等の受診の有無の割合(2択)
本人	(健)補問 11-1 健診を受けた機会	健診を受けた機会(5択)複数回答 直近に健診を受けた機会(5択)単一回答
本人	(健)質問 11-2 健診の結果の指摘の有無、医療機関の受診の勧めの有無、医療機関へ行ったか	健診の結果の指摘の有無の割合(2択) 医療機関の受診の勧めの有無(2択) 医療機関へ行ったか(2択)
本人	(健)補問 11-3 健康管理への注意	健康管理への注意(3択)
本人	(健)補問 11-4 受けなかった理由	受けなかった理由(12択)複数回答
本人	(健)質問 12 がん検診の受診状況	がん検診の受診状況(6択)複数回答

(5)集計手順

- ①「世帯票」、「健康票」、「貯蓄票」の全ての対象となっている世帯データを抽出した。データセットとして、40歳以上の世帯員を対象に、世帯員別に各調査票の情報を接続したものを作成した（「介護票」の対象となっている世帯は接続）。
- ②世帯構成（夫婦等の特定含む）は、「世帯票Ⅱ 世帯員の状況」問2 世帯主との続柄から関係を特定した。夫婦、親子関係を示すデータ項目を作成し、上記データセットに追加した。
- ③各調査票の拡大乗数を用い、4分類の構成比を算出した。
- ④「経済状態」は、所得額および家計収支額等から区分した。区分にあたっては、「(2) 高齢者のグループ化」に示した方法を用いた。

3. 高齢者の社会参加等と属性に関する分析

「平成 19 年 国民生活基礎調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部)のデータを用いて、高齢者の社会参加等の状況(就業状況、家族介護の担い手、子どもへの仕送り状況、親への仕送り状況および社会保険料の支払状況)と、各種属性との関連性について明らかにすることを目的に要因分析を行った。

また、参考分析として、健康状態、経済状態、精神的健康状態と各種属性の関係についての分析を行った。さらに、社会参加活動の 1 つとして就業希望等について着目し、各種属性との関連性について分析を行った。

分析は、60 歳以上世帯員のうち、在宅生活者を対象とした。

分析 1 : 高齢者の社会参加等

- ① 就業の状況
- ② 家族の介護の状況
- ③ 社会保険料の支払い状況
- ④ 子どもへの仕送りの状況
- ⑤ 親への仕送り状況

分析 2 : 健康状態、経済状態

分析 3 : 精神的健康状態

分析 4 : 就業状況等

- ① 仕事の有無、今後の就業希望
- ② 就業日数、就業時間

分析手法は、被説明変数がカテゴリカルデータの場合はロジスティック回帰分析、被説明変数が数量データの場合は重回帰分析とした。

分析には、IBM SPSS Regression を用い、分析にあたってはステップワイズ法を用いて有意な説明変数を抽出した。

各分析で説明変数の候補として用いた変数は以下の通りである。

なお、分析結果は「Ⅲ.(5) 要因分析の結果」に示す。

【分析 1】

	項目名	備考
被説明変数	就業の状況：仕事あり	「仕事なし」は参照値
	家族の介護：主たる担い手である	「主たる担い手でない(同一世帯に手助けや見守りを必要とする家族がいない場合を含む)」は参照値 ※【世帯票】問 9-4～6 より主たる担い手を特定
	社会保険料の支払い状況：あり	「なし」は参照値 ※【所得票】(16)より特定
	子どもへの仕送り状況：あり	「なし」は参照値
	親への仕送り状況：あり	「なし」は参照値
説明変数	年齢：後期高齢者	「前期高齢者」は参照値
	性別：男	「女」は参照値
	暮らし向き：大変苦しい	「普通」は参照値
	：やや苦しい	
	：ややゆとりがある	
	：大変ゆとりがある	
	家族類型：独居	「その他」は参照値
	：夫婦のみ	
	子どもあり	「なし」は参照値
	孫のあり	「なし」は参照値
	就業状況：仕事あり	「就業希望なし」は参照値
	：就業希望あり	※「就業の状況」を被説明変数とした分析では、説明変数から外す。
	要介護認定：受けている	「受けていない(手助けや見守りを必要としていないを含む)」は参照値
	家族の介護：主たる担い手である	「主たる担い手でない(同一世帯に手助けや見守りを必要とする家族がいない場合を含む)」は参照値 ※【世帯票】問 9-4～6 より主たる担い手を特定 ※「家族の介護」を被説明変数とした分析では、説明変数から外す。
	悩みやストレスあり	「なし」は参照値
1日の喫煙本数：10本以下	「吸わない、1か月以上吸っていない」は参照値	
：11～20本		
：21～30本		
：31本以上		

	市郡：大都市	「その他の市」は参照値
	：郡部	
	地域ブロック：北海道	「東北」は参照値
	：関東Ⅰ	
	：関東Ⅱ	
	：北陸	
	：東海	
	：近畿Ⅰ	
	：近畿Ⅱ	
	：中国	
	：四国	
	：北九州	
	：南九州	

【分析 2】

	項目名	備考
被説明変数	主観的健康状態：よい	「悪い」は参照値
	客観的経済状態：よい	「悪い」は参照値
説明変数	年齢：後期高齢者	「前期高齢者」は参照値
	性別：男	「女」は参照値
	暮らし向き：大変苦しい	※「客観的経済状態」を被説明変数とした分析では、説明変数から外す。
	：やや苦しい	
	：ややゆとりがある	
	：大変ゆとりがある	
	家族類型：独居	「その他」は参照値
	：夫婦のみ	
	子どもあり	「なし」は参照値
	孫のあり	「なし」は参照値
	就業状況：仕事あり	「就業希望なし」は参照値
	：就業希望あり	
	要介護認定：受けている	「受けていない(手助けや見守りを必要としていないを含む)」は参照値
	家族の介護：主たる担い手である	「主たる担い手でない(同一世帯に手助けや見守りを必要とする家族がない場合を含む)」は参照値 ※【世帯票】問 9-4～6 より主たる担い手を特定
	悩みやストレスあり	「なし」は参照値
	1日の喫煙本数：10本以下	「吸わない、1か月以上吸っていない」は参照値
	：11～20本	
	：21～30本	
	：31本以上	
	市郡：大都市	「その他の市」は参照値
：郡部		
地域ブロック：北海道	「東北」は参照値	
：関東Ⅰ		
：関東Ⅱ		
：北陸		
：東海		
：近畿Ⅰ		
：近畿Ⅱ		
：中国		
：四国		
：北九州		
：南九州		

【分析 3】

	項目名	変数の定義
被説明変数	精神的健康状態	実数 (0~24 点) (健)質問 9 過去 1 か月間の精神的健康状態の 6 項目について、 いつも=4 点、たいてい=3 点、 ときどき=2 点、少しだけ=1 点、 まったくない=0 点 とした、点数の合計
説明変数	年齢	実数 (60~101 歳)
	性別：男	「女」は参照値
	暮らし向き	大変苦しい=1、やや苦しい=2、 普通=3、ややゆとりがある=4、 大変ゆとりがある=5
	家族類型：独居	「その他」は参照値
	：夫婦のみ	
	子どもあり	「なし」は参照値
	孫のあり	「なし」は参照値
	就業状況：仕事あり	「就業希望なし」は参照値
	：就業希望あり	
	要介護認定：受けている	「受けていない(手助けや見守りを必要としていないを含む)」は参照値
	家族の介護：主たる担い手である	「主たる担い手でない(同一世帯に手助けや見守りを必要とする家族がない場合を含む)」は参照値 ※【世帯票】問 9-4~6 より主たる担い手を特定
	悩みやストレスあり	「なし」は参照値
	1 日の喫煙本数	吸わない、1 か月以上吸っていない=0、 10 本以下=1、11~20 本=2、 21~30 本=3、31 本以上=4
	市郡	大都市=1、人口 15 万人以上の市=2、 人口 5 万人以上 15 万人未満の市=3、 人口 5 万人未満の市=4、郡部=5
	地域ブロック：北海道	「東北」は参照値
：関東 I		
：関東 II		
：北陸		
：東海		
：近畿 I		
：近畿 II		
：中国		
：四国		
：北九州		
：南九州		

【分析 4 - 】

	項目名	備考
被説明変数	仕事あり	「なし」は参照値
	今後の就業希望あり	「なし」は参照値 ※「仕事なし」のみを分析対象とする。
説明変数	年齢：後期高齢者	「前期高齢者」は参照値
	性別：男	「女」は参照値
	暮らし向き：大変苦しい	「普通」は参照値
	：やや苦しい	
	：ややゆとりがある	
	：大変ゆとりがある	
	家族類型：独居	「その他」は参照値
	：夫婦のみ	
	子どもあり	「なし」は参照値
	孫のあり	「なし」は参照値
	要介護認定：受けている	「受けていない(手助けや見守りを必要としていないを含む)」は参照値
	家族の介護：主たる担い手である	「主たる担い手でない(同一世帯に手助けや見守りを必要とする家族がない場合を含む)」は参照値 ※【世帯票】問 9-4～6 より主たる担い手を特定
	悩みやストレスあり	「なし」は参照値
	主観的健康状態：よい	「悪い」は参照値
	客観的経済状態：よい	「悪い」は参照値
	市郡：大都市	「その他の市」は参照値
	：郡部	
地域ブロック：北海道	「東北」は参照値	
：関東Ⅰ		
：関東Ⅱ		
：北陸		
：東海		
：近畿Ⅰ		
：近畿Ⅱ		
：中国		
：四国		
：北九州		
：南九州		

【分析 4 - 】

	項目名	変数の定義
被説明変数	就業日数	実数 (0~7 日)
	就業時間	実数 (0~150 時間)
説明変数	年齢	実数 (60~101 歳)
	性別：男	「女」は参照値
	暮らし向き	大変苦しい=1、やや苦しい=2、普通=3、ややゆとりがある=4、大変ゆとりがある=5
	家族類型：独居	「その他」は参照値
	：夫婦のみ	
	子どもあり	「なし」は参照値
	孫のあり	「なし」は参照値
	就業状況：仕事あり	「就業希望なし」は参照値
	：就業希望あり	
	要介護認定：受けている	「受けていない(手助けや見守りを必要としていないを含む)」は参照値
	家族の介護：主たる担い手である	「主たる担い手でない(同一世帯に手助けや見守りを必要とする家族がいない場合を含む)」は参照値 ※【世帯票】問 9-4~6 より主たる担い手を特定
	悩みやストレスあり	「なし」は参照値
	主観的健康状態：よい	「悪い」は参照値
	市郡	大都市=1、人口 15 万人以上の市=2、人口 5 万人以上 15 万人未満の市=3、人口 5 万人未満の市=4、郡部=5
	地域ブロック：北海道	「東北」は参照値
	：関東 I	
	：関東 II	
：北陸		
：東海		
：近畿 I		
：近畿 II		
：中国		
：四国		
：北九州		
：南九州		

※就業日数、就業時間の分析では、就業しているサンプルのみを対象とした。